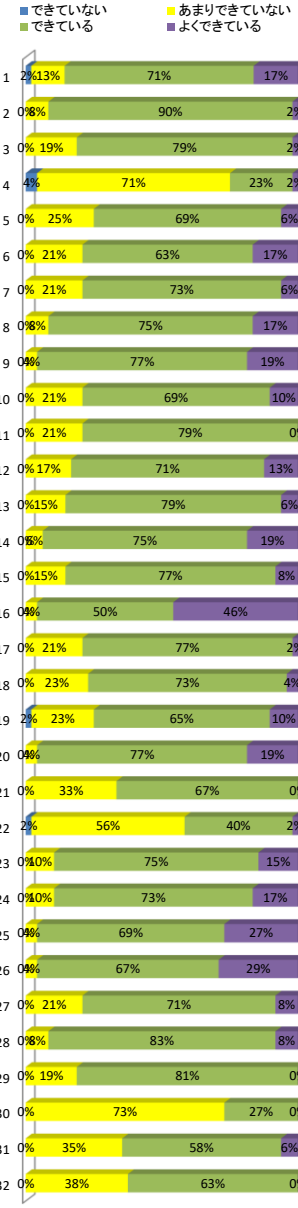


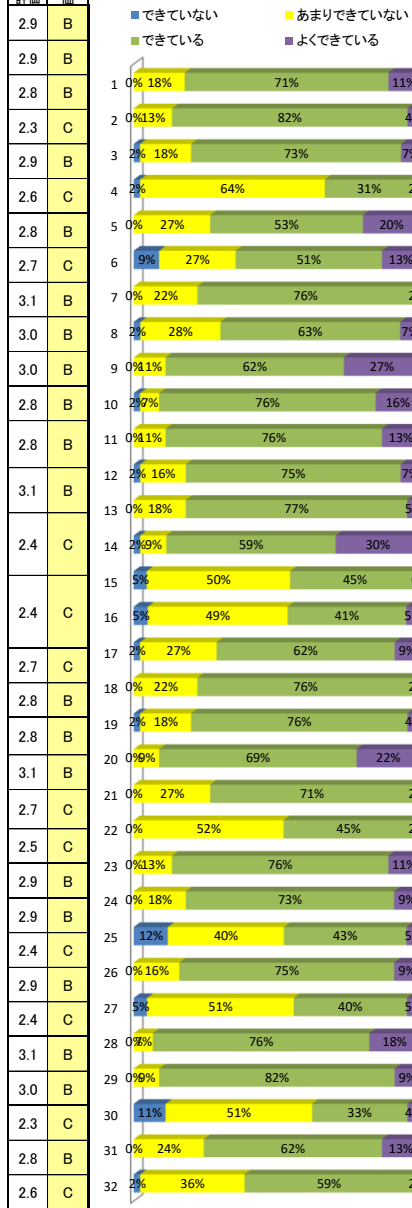
令和2年度 県立三木高等学校 学校評価項目について

評価の観点	担当	評価項目	R1		最終評価	評価
			番号	実践目標		
確かな学力の定着	教務	授業研究の推進と授業力の向上	1	公開授業、相互授業参観・研究授業による授業力向上	3.0	B
			2	生徒の授業評価を活用した授業改善	2.9	B
		3	適正な課題による家庭学習の充実	2.8	B	
	進路	学習習慣の確立による学力向上	4	図書館の利用率を高め、読書による感性・言葉の力の育成	2.2	C
			5	希望補習の充実(内容・方法等の検討を含む)	2.8	B
			6	夏季休業中の1・2年生の全員補習の充実	3.0	B
進路指導の充実	進路	3年間を見通したキャリア教育の実施	7	3年間を見通した三木高校の指導の基本計画の運用	2.9	B
			8	インターシップ・企業訪問・オープンキャンパス等の体験活動の充実	3.1	B
			9	学年に応じた講演会及び、進路講演会の実施	3.1	B
	生徒の自己理解と目標設定の確立	10	計画的な模試の実施とデータ分析及びその活用の研究	2.9	B	
		11	一人一人に応じた進路指導の充実(低学年からの志望校検討方法の活性化)	2.8	C	
		12	国際総合科の学力向上のための教育活動の充実	3.0	B	
グローバル教育	国際	英語教育の充実	13	英語授業研究による指導方法の研究	2.9	B
			14	探究学習など、国際総合科の特徴づくりのための教育活動の充実	3.1	B
		グローバル教育の推進	15	地域の小中学校との英語交流の推進(英語による情報発信)	2.9	B
	16		海外研修・留学・受入等、積極的な異文化交流とその広報の充実	3.4	B	
	17		部活動の魅力化と入部率向上	2.8	B	
	部活活性化	生徒指導	文武両道の推進	18	効率的な練習による部活動の活性化	2.8
19				ルール・服装・時間厳守(下校時間を含む)の徹底	2.8	B
生徒指導と安全教	生徒指導	規範意識を高め、ルール・マナーの遵守	20	日々の登校指導と交通安全講話等による安全意識の育成	3.1	B
			21	生徒の自主的・自発的な取り組みをサポートする体制作り	2.7	C
			22	生徒会を中心としたSNS等の自主的ルールづくり	2.4	C
			23	校内外の清掃による教育・学習環境の整備	3.0	B
情報発信	総務	(情報) ホームページの充実と本校の魅力発信	24	毎週のホームページ更新や各種通信等による学校情報の継続的な発信	3.1	B
			25	文化祭、体育大会等の行事や各事業の地域への公開	3.2	B
			26	オープンスクールや学校説明会等で、生徒による本校の魅力発信	3.3	B
			27	地域と連携し、地域貢献・地域交流の機会を増やす	2.9	B
			28	生徒の悩みや不安を早期に発見し、各部・学年の連携による、支援体制の確立	3.0	B
命教と育心	保健	生徒の悩みや不安を早期に発見し、各部・学年の連携による、支援体制の確立	29	人権ホームルーム等の教育活動全般をとおして、人権尊重の精神を育てる	2.8	B
			30	ノー会議デー・ノー部活デー、MHデーの共通理解を図り、定時退勤の推進	2.3	C
勤務正時間	教頭	(情報) 勤務時間の短縮と協働体制の確立	31	グループウェア、共有フォルダによるデータ共有で事務軽減、効率化を推進	2.7	C
			32	教育活動が円滑に展開できる、機能しやすい分掌・委員会組織づくり	2.6	C

R1最終評価(教員)



R2最終評価(教員)



各部・学年の最終評価と 来年度に向けての課題・方針	
コロナ対策のため一般の授業公開はできなかったが、校内の参観・研究授業は例年通り実施できた。	今年度は2学期の1回実施に終わった。全員が実施できるように周知する。
各教科の計画の下に実施できた。	各授業での図書館の利用率を高める。図書だより等の広報活動の充実を図る。
各学年進路担当を中心に適切に補習計画を立案し実施できた。	今年度は夏休みの短縮により実施せず。来年は年間計画で予定している。
年間指導計画にそった進路指導を行う。	コロナ禍で実施できない行事が多くあった。工夫された代案として講演会に変更した行事もあった。
今年はコロナ禍で、時期をずらすなど工夫が必要であった。来年度は計画どおりの実施を。	各学年進路担当を中心に適切な模試の実施およびデータの回覧などを行った。
各学年、模試データなどを利用した面談を随時実施した。	習熟度授業や手厚い指導を通して、誰一人取り残さないという職員全体の意識改革が求められる。
各学年の理解、協力のもと、高校卒業までに全員英語検定2級以上取得を目指して、英語の4領域「書く」「聞く」「話す」の伸長をあらゆる場面でサポートする。	探究学習ではコロナ禍にも関わらず、各事業所に協力頂き、生徒たちがフィールドワークに赴き、そこで得た知識を活用し、問題解決の提案ができた。
コロナ対応で他校との交流が制限される中、探究学習の一環で小学校との交流機会が持つことができた(1年「子ども」の集団登校は安全か「グループ」)。また社会情勢を鑑みて、小学校との交流も再開する。	コロナの影響により、全ての海外研修(派遣、訪問とも)が中止となり、外国との直接交流ができない日々が続いている。今後はALTの授業やALTとの交流を増やしたり、市内在住の外国人との交流を企画し、少しでも積極的な異文化交流を図る。
新入生対象の部活動紹介を実施した。表彰伝達等で各部活動を紹介、HPを活用し、発信した。	「いきいき運動部活動」を活用し、適切な休養と活動時間を推進した。
概ねルール・服装等は守られている。下校時間についても、顧問教員の協力もあり、改善の方向にある。	安全教育について決して充分とは言えなかったが、生徒は概ね節度をもって行動している。
例年に比べ、本来ある筈の生徒の活躍の場を割愛せざるを得なかった。サポートも充分でなかったかもしれない。	限られた活動時間の中でも、仕事は多岐にわたっており、優先順位が後回しになった感はある。
監督者の指導で差が出ている。生徒の意識も大事だが、監督者の先生方に意識を持ってもらうことも必要。	ホームページのデザインを刷新する。
ホームページのデザインを刷新する。	今年度はコロナの関係で難しい面が多かった。
夏のオープンハイスクールが中止になるなど、十分な広報活動ができなかった。	今年度はコロナの関係で難しい面が多かった。
カウンゼリングマインド研修の充実と各部、学年との連携を図るとともに、新しい情報共有により努める必要がある。	生徒の主体的な取組を目指す職員研修を実施した。HR活動や講演会の充実を図る。
教職員の意識改革を図り、定時退勤を促進した。ノー会議デーは定着している。	Office365、G Suite for Education、デジタル採点2の利用による業務支援
適材適所な人材を配慮し、機能しやすい組織づくりに取り組んだ。	